

府立中津支援学校 令和3年度「学校運営協議会」議事録（第3回）

日 時	令和4年2月25日（金） 書面開催			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	五石 敬路	大阪市立大学大学院准教授	奥井 光司	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	人見 光彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会会長	水迫 英紀	事務長
	中塚 磨由美	新梅田シティイノベーションクラブ	入福濱 光	首席兼小学部主事
	米田 秀	ワークセンター中津所長	川村 弘之	首席兼中学部主事
	川田 和子	大和大学教育学部准教授		
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度学校経営計画自己評価について ・ 令和4年度学校経営計画について ・ 令和3年度学校教育自己診断について 			
協議内容 の概略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度学校経営計画自己評価について ・ 令和4年度の学校経営計画について ・ 令和3年度学校教育自己診断について 			
提言内容・ 改善方策	<p>【令和3年度学校経営計画自己評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摂食研修、合同自活、FBM研修の定着及び進展は児童生徒理解を深めカウンセリングマインドの涵養と児童生徒の安心感の土台になったと感じる。また、今年度6月の医療的ケア児支援法成立の中、学校看護師の配置・医療的ケア安全委員会の設置を進めたことについて、今後のコロナ後の校内での役割・大阪整肢学院との連携に期待する。 ・ GIGA時代に教員と子どものリテラシー不足が問題視されるなか、校内事例検討会やICT機器活用勉強会の充実など取組の推進が感じられた。 ・ パッケージ研修の活用や個別最適な学びと協働的な学び（文部科学省）にクローズアップする教育活動の方向性が良かった。 ・ 大学との連携も視野に児童生徒を伸ばしつつ支援教育人材育成にも注力していたと感じている。「キャリアプランマトリックス」について今後の活用を期待する。 ・ 大阪整肢学院心理士との連携や「自立活動だより」などの新しい取組みがしっかり根付いていくことを期待したい。今後も、コロナ対策のため、十分な活動ができない状況の中、可能な限りの活動を行なったことは、評価できる。 ・ 個別指導計画検討会議を3回も実施するなど、活用についても考えていると思うが、計画をたてることより、実践していくことが重要。進捗状況の明確化等についても検討してほしい。 <p>【令和4年度学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期目標は、より明確に簡潔にまとめられていてわかりやすい。大阪整肢学院への開かれた姿勢を維持しながら、今後の学校像を構築することが望まれる。 			

- ・「マルチトリートメントに関する研修」や医療的ケアにおける校外活動時の緊急時対応は重要である。新型コロナウイルス感染症拡大時のBCP（事業継続計画）の策定については、校内の安全確保と休校時の学習保障などを含め、すべての学校で求められていると考える。加えて、実践事例についてWeb公開にも期待している。
- ・学生の人材育成等を視野に入れたボランティア講座等の活動や生徒への「職業」に関する取組み（販売学習、校内実習）は特色ある取組みになっている。必要であれば、販売場所の提供なども考えたい。
- ・「地域支援だより」の作成については、地域の支援教育力向上のためにも、交流校へ発信するとともに、学校運営協議会等でも紹介してほしい。

【令和3年度学校教育自己診断について】

- ・令和2～3年度の二年間において、学校の教育活動の大幅な制約や不測の事態対応のなかで、教育活動を堅持されてきたことについては評価ができるが、保護者と児童生徒の接点が減り、子どもを真ん中に顔を合わせての意見交換の機会が減ったことが、肯定的評価の低下につながったのではないかと。
- ・ICT活用や一人一台タブレットの活用については、大阪整肢学院との連携を深め、ニーズ等の把握に努めることも必要。特に、児童生徒にどのような力をつけてほしいと望んでいるのか、学校の考えだけでなく大阪整肢学院職員へも具体的に意見を聴取するなどの努力も必要ではないかと。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に対応し、より早期に学校再開をできたことには感謝している。大阪整肢学院の自己診断における総体的な評価が低いことは気になるが、何より、「児童生徒は、学校は楽しい。楽しみにしている」という項目での評価は高くなっているため、そこについては安心している。